

在シドニー総領事通信

第 49 回 「トップダウン」と「ボトムアップ」

令和 3 年（2021 年）9 月 29 日

首脳レベルの外交・安全保障で大きな動きがありました。9 月 16 日、豪英米 3 カ国の首脳は、豪英米 3 国間安全保障パートナーシップ（AUKUS）の創設を発表しました。最初の取組として、豪州は英国、米国と緊密に協力して原子力推進型潜水艦を建造します。9 月 24 日には、日米豪印首脳会合がワシントン DC で初めて対面で開催されました。新たな作業部会を設置し、今後毎年首脳会合を開催することも合意されました。この機会に日豪首脳会談も開催されました。

このように歴史の大きな歯車が動く中で大切なことは、その長期的な意味合いを考え、自らの次の行動につなげていくことだと思います。これまで長い間、外交や安全保障に関わっている中で、「トップダウン」の動きを最大限に活かすためには、それに呼応する形で「ボトムアップ」の取組をしっかりと進めていくことが重要と感じています。

今回の総領事通信では、まず AUKUS の創設と日米豪印首脳会合の開催というビッグニュースの中身を振り返りたいと思います。そして、それを当地からどのように生かしていくことができるか、皆様と一緒に考えていければ幸いです。



AUKUS 創設を発表する豪英米首脳共同記者会見
(2021年9月16日・モリソン首相 Facebook)

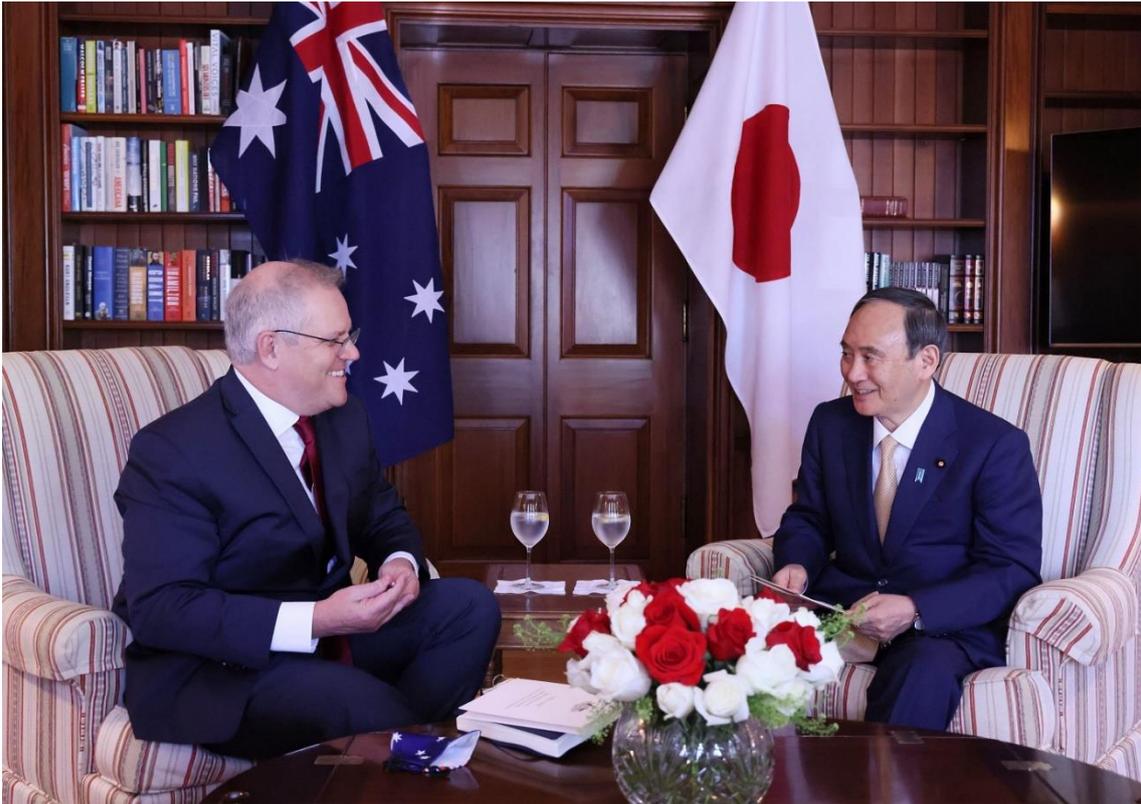
●豪英米3国間安全保障パートナーシップ (AUKUS)

9月16日の早朝、キャンベラとロンドンとワシントンDCをオンラインで結び、モリソン首相とジョンソン首相とバイデン大統領の共同記者会見が開催されました。約12分間の記者会見での3首脳のメッセージは、今も[動画](#)で見ることができます。[3首脳共同声明](#)も発出されました。

[モリソン首相](#)は記者会見の口火を切り、インド太平洋地域で一層複雑化する安全保障上の課題に対処するために、3国間安全保障パートナーシップ (AUKUS) を創設すると発表しました。その最初の取組は、英国と米国との緊密な協力により原子力推進型潜水艦をアデレードで建造することです。核兵器を搭載しないこと、核不拡散の義務を全て履行することも併せ表明しました。今後、サイバー、人工知能 (AI)、量子技術、追加的海中能力における協力も進める予定です。

そして、AUKUS は、インド太平洋地域の他の協力枠組 (ANZUS、ASEAN、二国間戦略協力、日米豪印、ファイブアイズ、大洋州諸国) に一層貢献するとしています。この未来に向けてのパートナーシップの基盤に、豪英米3国が1世紀以上にわたり様々な戦争を共に戦ってきた歴史と信頼関係があることも強調しています。

山上信吾駐豪州大使も、本件を[南半球便り \(その 35\)](#) で早速取り上げています。



日豪首脳会談（2021年9月24日・内閣広報室）

●日豪首脳会談

約1週間後の9月24日、日米豪印の4首脳がワシントンDCに集まりました。本年3月に開催された歴史的な日米豪印首脳テレビ会議で合意・発表された通り、初めて対面で第2回会合を開催するためです。

この第2回日米豪印首脳会合に先立って、[日豪首脳会談](#)が行われました。この場で両首脳は、インド太平洋地域における戦略的競争に対応するために、日米豪印の協力を含め、日豪が同盟国・同志国との連携を強化していくことの重要性を確認しました。この中で、菅総理から、豪英米三国間安全保障パートナーシップ（AUKUS）の創設を日本として歓迎する旨述べました。

両首脳は、安全保障や経済の分野における日豪関係の前進と緊密な協力についても一致し、経済的威圧や東シナ海・南シナ海における力による一方的な現状変更への試みへの反対の意を改めて共有しました。東南アジアとの連携、北朝鮮などについても意見交換を行い、会談は70分間にも及びました。



第2回日米豪印首脳会合（2021年9月24日・内閣広報室）

●第2回日米豪印首脳会合

そして、9月24日午後に[第2回日米豪印首脳会合](#)が開催されました。今回の会合では、国際社会が直面する喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症対策について、日米豪印がワクチン供与や資金拠出を通じて、インド太平洋地域でのワクチンへの公平なアクセスの確保に大きな役割を果たしていることを確認しました。そして、ワクチンの生産拡大、インド太平洋地域への供給を含め、新型コロナウイルス感染症対策において引き続き協力していくことで一致しました。

3月に立ち上げた重要・新興技術、気候変動に関する作業部会について成果も確認し、特に重要・新興技術については「[技術の設計・開発・ガバナンス及び利用に関する日米豪印原則](#)」声明が採択されました。今回、新たに宇宙、サイバーの分野で作業部会等を立ち上げ、クリーン・エネルギー、人的交流といった分野でも協力を強化することで一致しました。詳細は、[共同声明](#)と[ファクトシート](#)をご覧ください。日米豪印協力の拡大・深化をご理解いただけたと思います。

更に4か国の首脳は、このモメンタムを今後も維持・強化していくことを確認し、今後毎年、日米豪印首脳会合を開催することで一致しました。

山上大使も[南半球便り（その37）](#)で本件を取り上げ、AUKUSとの関係も含め説明しています。

Tomorrow's City Today

Opportunities in the Bradfield City Centre and Western Parkland City

Online → Friday, 8 October 2021 | 9:30am - 2:30pm AEDT



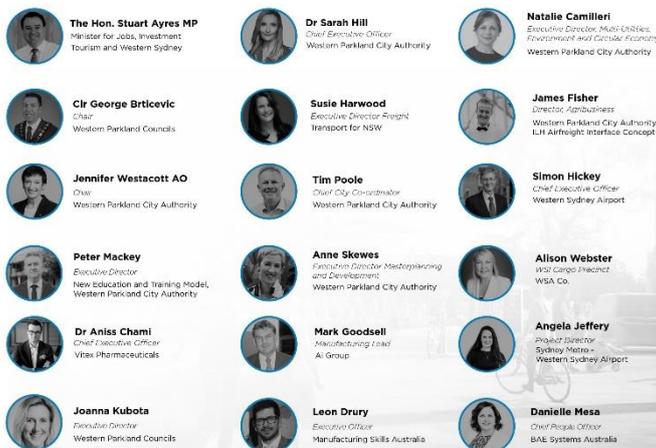
[CLICK HERE TO REGISTER](#)

Agenda Overview

As momentum builds in the Western Parkland City and the Bradfield City Centre starts to take shape, the Western Parkland City Authority (WPCA) is excited to invite you to **Tomorrow's City Today - Opportunities in the Bradfield City Centre and Western Parkland City**, an online briefing for industry to learn more about future tender, investment and partnership opportunities.

You will hear from **The Hon. Stuart Ayres, MP**, Minister for Jobs, Investment, Tourism and Western Sydney; WPCA Chair **Dr Jennifer Westacott AO**; WPCA CEO **Dr Sarah Hill** and Western Sydney Airport CEO **Simon Hickey** and other industry leaders for a discussion on the Bradfield City Centre, Western Sydney Aerotropolis and Western Parkland City.

Speakers



JOIN THE SOCIAL LEARNING PLATFORM FOR FREE AT WWW.PUBLICSECTORNWORK.CO

西シドニー開発オンラインブリーフィング（2021年10月8日開催予定）

●ビジネスでの具体化

以上のように、インド太平洋地域における戦略的競争を受けて、英米豪、日米豪印といった新たな枠組の下で協力が進み、その中で日豪の連携が大きな役割を果たすという流れが生まれています。

当地でこの流れに乗り、そして後押しできる最大の分野はビジネスです。重要・新興技術、気候変動・脱炭素化、宇宙、サイバーやインフラなど、いずれも日米豪印協力の焦点となっています。

これらの先端技術開発の拠点となる西シドニー開発に向けて、10月8日、調達・投資・パートナーシップの機会に関心を持つ企業・団体（Industry）向けの**ブリーフィング**がオンラインで開催されます。エアーズ雇用・投資・観光・西シドニー担当大臣をはじめ多数の関係者から半日以上にわたり説明が行われます。

また、10月6日には、経済産業省とJETROの主催で、**日豪イノベーション連携セミナー**（J-Bridge 豪州ローンイベント）がオンラインで開催予定です。日豪双方の企業の視点から日豪オープンイノベーションの可能性を解説します。



Study NSW 川口代表代行との意見交換（2021年9月22日）

●人的交流の促進

日豪協力の基盤をつくるものとして、人的交流の拡大も重要です。9月22日に Study NSW の川口（Toshi Kawaguchi）代表代行（日系豪州人です）と、コロナ後の留学生受入再開に向けて意見交換を行いました。翌々日、NSW 州政府は、[留学生受入再開のパイロット事業計画](#)を発表しました。第1段階として、ワクチン接種済の留学生 500 名をチャーター便で年内に受け入れるとのことでした。

また、9月28日にはNT 教育省のリディアード（Debra Liddiard）国際教育課長とも意見交換を行いました。NT は昨年コロナ下で留学生受入パイロット事業を実施し、日本人留学生もその下でチャールズ・ダーウィン大学（CDU）に留学しています。

豪州政府（Austrade）は、日本人向けに豪州留学の[ウェブサイト](#)を運営し、[留学後のキャリア体験談](#)も紹介しています。現在、若者を英語指導助手や国際交流員として日本各地に派遣する「JET プログラム」で、[豪州からの2022年派遣生を公募](#)しています（11月12日締切）。コロナ後に、日豪の若者による両国間の往来が更に拡大して充実したものとなるよう、情報発信をはじめとする取組を進めていく考えです。



ダーウィン日本祭 (2021年9月18日・AJANT Facebook)

●「トップダウン」と「ボトムアップ」

私自身、30年以上の外務省勤務の中で、様々な首脳級の国際会議や二国間首脳会談に居合わせました。その一方で、防衛省出向時に米軍基地の基地対策を担当して全国各地を回ったり、「えひめ丸」衝突事故で米海軍潜水艦長と日本のご遺族の面会の場に立ち会ったり、バングラデシュや南スーダンで支援の前線にいる人たちとお会いしたり、様々な現場を見てきました。

その中で感じたことは、首脳外交は、草の根の現場でそれを支える人たちが日々努力することで、初めて所期の成果を上げ、それが持続し発展していくということです。「トップダウン」と「ボトムアップ」が呼応して、いわばはさみうち、サンドイッチのような形で世の中を動かしているように感じています。

9月18日、[北部準州豪日協会 \(AJANT\)](#) の主催、北部準州政府・パスパレイ社・INPEX 社の支援により、ダーウィン日本祭 (Japanese Festival Darwin) が開催され、私はコロナで出席が叶わなかったのでメッセージを送りました。豪英米を AUKUS で結びつけた一つの要因が歴史なのであれば、第二次大戦中の日本軍によるダーウィン空爆の地で日豪両国が協力し友情と交流を育んでいるのも歴史です。ビジネスや人的交流、文化交流など様々な取組を大切にすることで、インド太平洋地域の安定と繁栄を支えていきたいと思えます。

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦

(以上)